

2020/1/30

(公立無償教育 幼小中一貫 international school 制度 提案)

「鉄は熱いうちに打て」

「三つ子の魂、百までも」

がモノの道理であるなら、高等教育の無償化などに力を入れるより、幼稚園、保育園の無償化に力を入れた方がいいような気がします。

そうして、保育園、幼稚園も international school(=kindergarten)にしてしまっってはどうかでしょう。

言葉や文字を碌に覚えていないうちに、身振り手振りや表情の百面相や実際の立ち居振る舞い、仕草で会話をはじめ、そのうち自然に「言葉と文字」というのがあることを発見し、それを実体験や情景を伴って覚えていくというような「子供の生活の中の英語（語学）」こうなると小中一貫ではなく、幼小中一貫教育課程かもしれません。

ここで副次的に大切なことは、この子供の変化を通して、育てる側の親御さんも「世界には違った見方考え方があるんだ。自分たちの見方考え方はその中の一つに過ぎないんだ」ということや「しかし、見方考え方は異なっても、実際に起こる感情、嬉しいとか、悲しいとか、つまんない、とかは全く変わりがないんだ、どの国の人も」という発見が産まれると「も」おもうのです。

となれば、既に半分考え方、見方が固まってしまった「高等教育」に力を入れるよりも、頭の柔らかい幼、小、中教育に力を注ぎ、上述のように「親子ともども新しい世界や発見、変化に触れる」確率の上がることに、我が国の将来を託した方がいいような気がするんですが、いかがなものでしょうか？

(追記)

保育園、幼稚園の無償化であれば高等教育の無償化より国家的財源負担も少なく済むでしょうし、働くお母さん方のご負担も軽減されるのではないのでしょうか？

また、更に言えば就労在日外国人にとっても負担が軽減されることにもなるのではないのでしょうか？

蛇足ですが、無償化と言いつつ幼稚園の制服の高額さに、就労在日外国人の母親は度肝を抜かれておりました。(Oh My God!! Unbelievable!!)

(実際に細部にわたって試算したわけでないので、追記とさせて戴きました)